

“おもしろくて ^{わかりあい} ためになる 学びの共有”

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー あきた

第20号

2012年（平成24年）9月2日発行

自分をどう紹介して いますか？

秋田県教育カウンセラー協会

代表 水戸谷 貞夫

最近のことですが、ある会合で若い方からごあいさつされました。その方は私のことをご存じのようでしたが、私はその方について何の予備知識も持っておりませんでした。しかし、親しみを感じさせる自己紹介をしていただいたことで、前から知っている方のような感じを覚え、うれしくなったものでした。

また、次のような体験もあります。その方は、いきなり、「先生のご講演を筑波大学の中央講座で伺いましたし、東北大会でも何回かお話を伺ったことがあります。お元気そうで何よりです。」と申されたのですが、自分のことは、私が問いを出すまで、一言も申されませんでした。

このような場合は、まず自分のことを紹介されるのが礼儀です。その際、わかりやすく自己紹介することができ

るかどうかで、こちらも評価していることを知っておくべきだと思います。

自分を紹介するときには、学歴や職歴をわかりやすく申される方を大事にしたいと思います。たとえば、自分のことではなく、現在勤務しておられる学校の校長の人間性のことを言われる人がいれば、なぜここでそんなことを言うのか、と思うし、そんな悪口を聞きたくないと思っていることを忘れないでほしいと思います。特に初対面の場合は自分自身のことをわかりやすく紹介してほしいと願っていることをお考えください。



ジャガイモの力

会長代行 濱田 眞

昨年(2019年)の4月、私は台所の引き出しにしまい忘れたジャガイモを見つけました。ひからびてしわくちゃになっていました。すぐ捨てようと思いましたが、よく見ると新しい芽があちこちから出ています。だめで元々と思いながら畑に植えてみることにしました。しかし、外はまだまだ寒い季節です。硬くなった土をクワで掘り起こし、肥料と水をたっぷりやり、ジャガイモを半分(約5cm)に切って植えました。

それから1ヶ月は何の変化がありませんでした。しかし、5月の連休が終わる頃、ようやく芽を伸ばしてきました。そして6月、初夏の太陽がまぶしいほど輝き、やさしい雨が降り注ぐ時を待っていたかのように、ジャガイモは緑の葉っぱを大きく広げ、真っ白な花を咲かせました。それは命の輝きそのものでした。

やがて花が散り、葉が茶色に変色してきました。ジャガイモが収穫の時期を迎えたのです。そっと土を掘り起こした私は驚きの声を上げました。一つの茎から10個以上のジャガイモが連なって出てきたのです。私の両手一杯分のジャガイモが、段ボールに入りきれないほどのジャガイモを生み出したのです。ジャガイモの力は素晴らしいと思いました。

子どもたちはジャガイモに負けない力を持っています。自分でも気がつかないほどのたくさんの才能を持って生まれてきました。その中には、引き出しにしまい忘れた才能もいっぱいあるはず(2020年)です。それを引き出す仕事(2021年)が教育です。教育カウンセラーには、教育に関わる方々の力をつなぎ合わせ、良好な生育環境の構築に貢献することが期待されています。

微力ながら教育カウンセラー協会の会長代行をつとめます。水戸谷会長を助け、秋田県教育に貢献したいと考えています。よろしくお願ひいたします。



子供たちの健やかな成長のために

会長代行 渡辺 一郎

このところの子供たちによる「いじめ」の報道には、教職に携わっていた者として本当に胸が痛みます。いじめを発端として不登校に陥ったり、さらには自ら命を絶つなどということはあってはならないことです。

ただ、いじめに類するものはいつの時代にもあり、またこれからも消えることはないだろうと思います。例えば、村八分や身分差による蔑みと排除、高度成長期に言われた窓際族、最近のパワハラ等は、「いじめ」が絶えず社会全体を覆っていることを示しています。

これは人間のもつ自己保持本能が働いているからです。人間が自己中心的な行動に走りやすいのもこのためです。そして良くも悪しくもこれが人間の生きる力の根源です。

ところで、インドの詩人タゴールは「単独は無なり。他者がいて実存す。」という言葉を残しています。人は、自分とは違う他人がいてこそ自我を意識し、互いに己の役割を果たすことによって生きていることが自覚できるという意味です。いわゆる社会性はこうした他者意識から生まれてきます。このことによって人間の自己中心的行動は抑制され、互いに譲り合うという「人間らしさ」が芽生え、社会の秩序が保たれるのだと思います。

それにもかかわらず、前述したように多くの人が自らを律することができないのは、自己保持本能が時として「人間らしさ」に勝るからでしょう。人が理性だけではなく情動的な生き物だという証しでもあります。

しかし、私は自分が教職にあった時には、少なくともこれから成長しようとしている子供たちがいる学校だけは互いに助け合い、励まし合うという理想の社会であってほしいと願っていました。教師はそのためにいるのだと思っていました。教師が子供に寄り添い、子供の気持ちを受け止め、子供と苦楽をともにする時、子供の心には「人間」としての感覚が育まれます。こうして子供は社会人としての一歩を踏み出すのだと思います。

学校教育のあり方が問われつつあるこの時期に、教育カウンセラー協会の一員として再び子供たちの成長を考える機会を得たことはうれしい限りです。会員の皆さんとともに学びあい、学校教育の充実と子供たちの健やかな成長に少しでも貢献できたら幸いです。

カウンセリング・トピックス

『授業のユニバーサルデザイン』

協会理事 上級教育カウンセラー 浅沼知一

『ユニバーサルデザイン』という言葉がある。ユニバーサルは「普遍的な」「全体の」という意味で用いられ、直訳すれば「万人向け設計」。年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるようにデザインすることをいう。

代表的な例としては、シャンプー容器の側面にギザギザをつけ、手触りでリンス他の容器と区別できるようにする設計などがあげられる。視覚障害の人だけでなく、洗髪中で目を開け難い時にも使い勝手が良い。他にも、シャワートイレや大きめの電灯スイッチなど、ユニバーサルデザインのコンセプトが活かされた製品や意匠を日常生活の中で目にするのは意外に多い。

これに似た考え方に、『バリアフリー』がある。障害を持つ人に便利という点は共通しているが、現に障がい者や高齢者の前にあるバリア（障壁・不便）を取り除くという発想、「特定の人に対する、特別な対策」というイメージが先行してしまう。例えば、ショッピングセンター等で「障がい者用」と書かれた広めの駐車スペースを設置するのはバリアフリーの精神だが、使用するのに抵抗を感じることもあるだろう。ユニバーサルデザインでは「だれもがさりげなく使える」を重視しており、この点でもバリアフリーとの違いを感じる事が出来る。

学校教育においても発達障害を持つ子ども等に対し、通常学級の中で特別な働きかけが行われることがある。例えば、別個のプログラムを作成したり、特性に応じ

た補助資料・補助教材を用いるなどだが、これらは「授業のバリアフリー化」といえよう。授業に苦戦する子どもに対するアプローチだが、どうしても「一部の子どもへのモノ」...という印象を与えてしまう。

近年「授業のユニバーサルデザイン」という言葉を耳にするようになった。これは、前述のような「授業に苦戦する子どもへのアプローチ」を、最初から全ての児童生徒向けに行い、それによってクラス全員が授業を理解し易くなる...という考え方である。

具体的には、「その日の予定や時間割を黒板に書く」「不必要な刺激（装飾）を除いた掲示をする」「イラストや写真など、視覚に訴える資料を多く用いる」「具体的に明確・具体的な指示をする」「一回に多くを伝えず、スモールステップで指示する」「肯定的に、出来たことを評価する」「個性や違いを認め合える学級作りをする」等があげられる。

授業のユニバーサルデザインに基づく様々なアプローチは、発達障害がある子ども等にとっては「ないと困る」配慮であると同時に、全ての子どもにとって「あると便利」な工夫...ということが出来るだろう。



書籍紹介

10月7日・11月4日に開催される
研修講座で講師をしていただく3
名の先生方の書籍を紹介します。

「いじめ 予防と対応Q & A 73」

菅野 純・桂川泰典【編著】，明治図書
現場の先生方から寄せられた「いじめ」
に関する様々な疑問を，カウンセラーを含
む専門家による執筆者陣が事例を挙げなが
ら具体的に解説しています。「予防」や「理
解と把握」，「ネットいじめ」から「不登
校・発達障害・非行」「保護者との関わり」
まで，いじめ対応に必携の一冊といえます。
（「BOOK」データベースより）

「実践家のための認知行動療法テクニック ガイドー行動変容と認知変容のためのキー ポイント」

坂野雄二【監修】
鈴木伸一・神村栄一【著】，北大路書房
認知行動療法の実践書として「How to」
を伝えることに重点を置いた本です。認知
行動療法の具体的なテクニックや，実践し

ていく上での基本的な考え方や心構えなど
を解説しています。著者らが実際に経験し
た症例を題材にしながら，具体的に解説し
ているため，イメージしやすく，実践する
上で役に立つ書籍といえます。

「発達障害のある子の理解と支援」

宮本信也【監修】，母子保健事業団
発達障害のある子どもたちの大多数は，
特別の脳障害や病気を持ってはおらず，＜
非定型な発達特性＞をもって生まれてきた
ともいえます。そんな子どもたちへの現場
での支援とは「できないことを直接できる
ようにする」ことではなく「できないこと
を他の手助けを借りてうまく切り抜けられ
るようにする」ことともいえます（「巻頭
言」より）。保護者への養育支援という側
面とともに，発達障害特性のある子ども
たちを理解し，上手に社会生活をおくるた
めの支援が求められています。（母子保健事
業団 HP より）

編・集・後・記

最近いじめに関する事件が話題に上ることが多い。その中には健全な対人関係をうまく構築できない子どもの存在があると思う。被害をうける子どもはもちろん加害者側の子どもも同様である。昔は多忙な親たちが子どもに関わる時間が少なかったので子どもたちは自分たちで人間関係の作り方を学ぶ機会が多かったのだ、と早稲田大学の河村教授に聞いたことがある。人間関係の作り方を学ぶ機会は減る上に、身の回りに流れる多量の情報に流され正しい判断をつけにくいのが現代社会であると思う。子どもたちに人間関係の作り方を教える私たちの取り組みがもっと広がって、情報に振り回されず、健全な人間関係を構築できる子どもたちが増えていくことを期待したい。そして、世の中のいじめ事件がもっともっとなくなってほしいと切に願っている。（N. Y）